

P1~3	企画展 三井寺 仏像の美
P4	ミニ企画展 三井寺の近世仏画 ミニ企画展 趣味家謹製 木版宝船絵はがき展
P5	学芸員のノートから
P6	企画展 三井寺 仏像の美

智証大師円珍生誕1200年記念企画展

三井寺 仏像の美

平成26(2014)年10月11日(土)から11月24日(月・祝)まで



国宝 紙本墨画五部心観(完本) 中国・唐時代(9世紀) 園城寺蔵

「五部心観」は、通常お軸の形をしている曼荼羅(金剛界)を解体して、仏像を横に並べて巻子に描いたものです。巻末の智証大師円珍自筆の奥書から、大中9年(855)に唐の長安に留学中、密教の師匠の法全阿闍梨が持っていた本書をそのままもらった事が判ります。作風を見ると、描かれた曼荼羅の仏像も均整の取れた体つきで、淀みのない筆線もすばらしく生命感にあふれ、グローバルな唐時代の魅力を十二分に表しています。唐時代の密教関係の原本はほとんど現存せず、そのなかでほぼ完形に近い姿で我々の目の前にある本書は、まさに世界的な至宝といえるでしょう。三井寺の僧侶でも普段は全く拝することができない国宝が、今回特別に公開されます。

※展示期間 完本(唐時代)10月11日~11月3日、前欠本(平安時代)11月5日~24日 ともに国宝

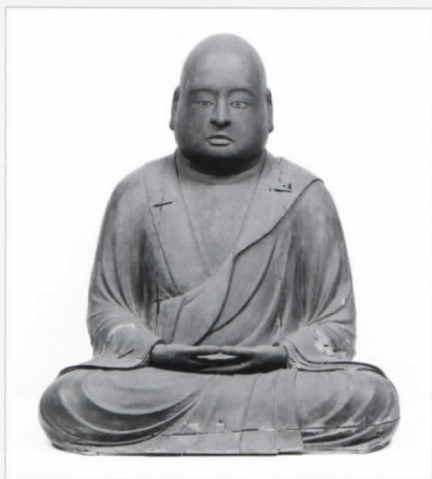
三井寺 仏像の美

今年は、比叡山の第5代天台座主で、大津の園城寺（三井寺）を中興した智証大師円珍が生誕して 1200 年という節目の年にあたります。これにちなみ、三井寺では「宗祖智証大師生誕 1200 年慶讃大法会（平成 26 年 10 月 18 日～11 月 24 日）」が行われ、数々の法要やイベントが催される予定です。

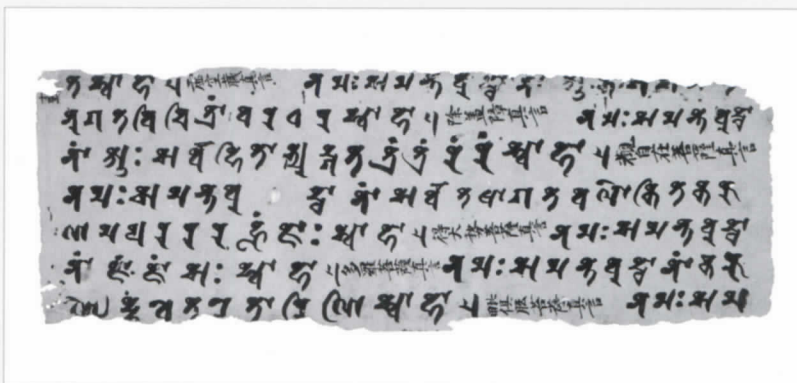
その中でも、三井寺で最も清浄な所とされる唐院・大師堂に安置の木造智証大師坐像（中尊大師・国宝）や木造智証大師坐像（御骨大師・国宝）、木造金色不動明王立像（重要文化財）がご開扉されます（10 月 19 日～11 月 24 日）。三井寺の秘儀について触れるまたとない機会となることでしょう。また、西国三十三所札所の一つでもある観音堂の本尊、木造如意輪観音坐像（重要文化財）も特別にご開帳されます（10 月 18 日～11 月 24 日）。そして、11 月 21 日～11 月 23 日には「結縁灌頂会」が行われ、参加者は国宝の黄不動尊を直接拝することが出来ます。さらに 10 月 19 日には、新たに展示スペースを伴う「文化財収蔵庫」がオープンし、微妙寺の木造十一面観音立像、護法善神堂の木造詞梨帝母倚像（ともに重要文化財）などの仏像を常時拝することが出来るようになります。このように今秋は、特別に三井寺山内において多くの文化財と接することが出来る、またとない機会となるのですが、これにあわせて当館でも園城寺の仏像と仏画を集めた展覧会を行います。今秋に三井寺と隣の当館にお越しいただくことで、総合的に三井寺の仏教文化をご覧いただけることになりました。

当館では、市内の神社仏閣に所在するご宝物の実態調査を開館以来進めています。園城寺に関しては、開館以前に大津市教育委員会が昭和 58 年から実施した寺宝調査が総合的なもので、これによりおおよその未指定の宝物の所在確認が可能となりました。それ以前、昭和 46 年の『秘宝 園城寺』の発刊に先立つ調査においても綿密に調べられ、同書を見れば多数の文化財が伝来していることがわかります。その後も機会があるたびに調査が行われ、新しい知見につながってきました。当館の調査はこれら先人のご苦勞を土台として行わせていただき、新たな発見がありました。今回はそれらを含めて展示します。

（※記号はそれぞれ、●国宝、◎重要文化財を表します）



木造智証大師坐像 1 軀 園城寺(行者堂)蔵



●梵夾 1 夾 園城寺蔵

I. 智証大師円珍、II. 三井寺前史

第 I 章では、円珍の肖像と、唐の開元寺でインドの高僧から授与されたものである可能性のある梵夾を紹介いたします。その特徴的な相貌を持つ円珍。その風貌で積極的に活躍していた様子を、国宝の梵夾から想像してみてください。

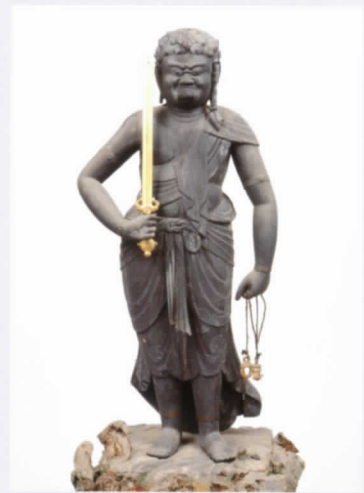
第 II 章では、円珍入寺以前、つまり 7 世紀に創建された三井寺の様子や本尊について紹介します。不明なことが多いのですが、近江大津宮（大津京）関連寺院出土塑像や、本尊を描いた画像などから思い起こしてみます。



絹本著色弥勒菩薩像 1幅
京都国立博物館蔵



○木造護法善神立像 1軀
園城寺（護法善神堂）蔵



木造不動明王立像 1軀
園城寺（観音堂）蔵



木造不動明王立像 1軀
園城寺（金堂）蔵



木造不動明王坐像 1軀
園城寺（行者堂）蔵



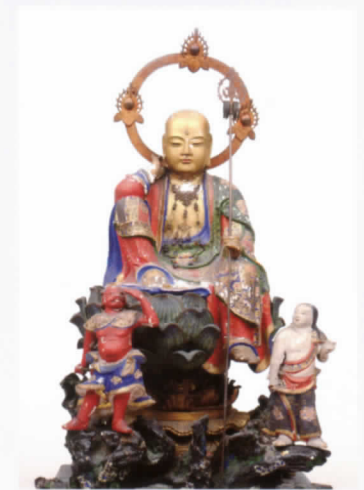
木造厨子 1基
園城寺（新羅善神堂）蔵



木造毘沙門天立像 1軀
園城寺（金堂）蔵



木造愛子立像 1軀
園城寺（護法善神堂）蔵



木造地藏菩薩及び二童子像 3軀
真西町自治会蔵

大津の仏教文化15 三井寺の近世仏画

企画展「三井寺 仏像の美」第2会場

会期：平成26年10月15日（水）～12月7日（日）
 （前期：10月15日～11月9日、後期：11月11日～12月7日）

智証大師円珍によって中興された三井寺には、貴重な文化財が数多く伝えられています。その中には、30年近く前に調査が行われて後、これまでほとんど紹介されていない絵画も数多く現存しています。

円珍による中興以来、繁栄を極めた三井寺は、文禄4年（1595）に豊臣秀吉から関所を命じられます。堂塔は破壊され、寺領は没収されてしまいますが、秀吉没後に関所が解かれると、有力大名を後ろ盾に、急速な復興を遂げていきます。

そこで本展では、中世が終わり、近世という新しい時代に描かれた三井寺の仏画に焦点を当て、紹介します。



絹本著色尊星王像 1幅
園城寺蔵



紙本著色新羅明神像 1幅
園城寺蔵

趣味家謹製 木版宝船絵はがき展

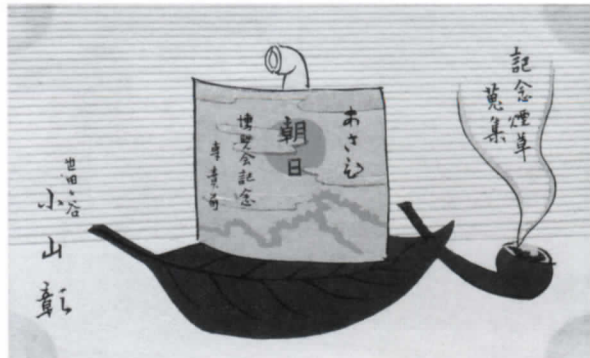
会期：平成26年12月9日（火）～平成27年1月18日（日）

大正期、京都や大阪の社寺で、節分に宝船すりものの摺物を頒布する、宝船ブームが訪れました。この流行に火をつけたのは、一説では関西の趣味家たちだったといわれています。彼らは授与品の宝船を集めるだけでは飽き足らず、後に自製の宝船を制作するようになりました。

今回ご覧いただくのは、趣味家たちが昭和10年代に行なった、宝船をモチーフにした絵はがき交換会での作品の数々です。木版摺でつくられたユーモラスな図柄をお楽しみください。



宝船 松竹梅 川西英画 昭和8年 本館蔵



宝船 煙草づくし 昭和12年 本館蔵

三井寺の近世絵画、悉皆調査継続中

当館では、智証大師円珍生誕1200年記念企画展「三井寺 仏像の美」開催に向けて調査を行っているところであり、前号では、彫刻担当の学芸員が報告いたしました。

三井寺には数多の彫刻群のみならず、300を優に超える絵画作品が伝来しています。今からおよそ30年前、三井寺に伝来する絵画の悉皆調査が行われ、目録が制作されました。現在、その目録に掲載されている情報の確認と更新を目的に、実作品の調査を鋭意継続中です。

三井寺は、円珍中興以来、天台宗の寺門派の拠点として、「日本四箇大寺」と呼ばれるほどの繁栄を築きました。しかし、文禄4年(1595)、豊臣秀吉によって^{けっしょ}闕所を命じられ、堂塔は破壊され、寺領は没収されてしまいます。その後すぐ秀吉は亡くなり、三井寺の闕所は解かれ、北政所や徳川家康、毛利輝元といった有力者の庇護の下、急速な復興を遂げます。このように、中世から近世へという時代の移り変わり、近世の新たな発展を体験した三井寺には、仏画のみならず様々なジャンルの絵画が数多く伝来しています。

絵画の調査は、作品の形態、寸法、素材、彩色方法といった基本的な情報に加えて、画家のサインや銘文といった文字資料を解読することで、その絵がいつ、どこで、誰によって、そして何が描かれたのかを検証します。その上で写真撮影を行い、情報をまとめ、記録として残していきます。

例えば、今回ミニ企画展で展示予定の「紙本著色新羅明神像」ですが、調査の過程で掛幅の裏側から修理記録が見つかり、その作品がどのような経緯で制作され、修理されたのかが判明しました。

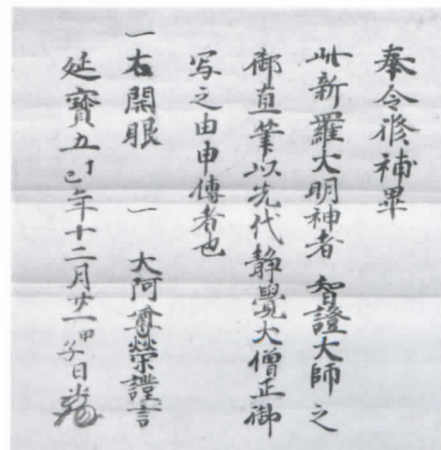
三井寺に伝来する膨大な数の絵画作品を、一つずつ、作品の状態に気を付けながら、開いては閉じる作業を続けるのは根気のいる仕事です。しかし、絵画担当の学芸員にとっては、掛幅や巻物など、開く作業の中で徐々に作品の姿が現れてくる、そのほんの一瞬の過程が、最も楽しくもあり充実した時間と感じるのです。

今回の展示では、そんな悉皆調査で新たに見つかった作品も並ぶ予定ですので、開催まで今しばらくお待ちください。

(本館学芸員 鯨井清隆)



絵画の調査風景。写真中の作品は、室町時代に模写され、江戸時代に修理された「紙本著色新羅明神像」(園城寺蔵)。



「紙本著色新羅明神像」(園城寺蔵)の裏に貼り付けられた延宝五年(1677)の修理銘。

